

整形外科（選択）

研修科	整形外科（選択）
責任者	教授 赤木 将男
指導医数	8 名
研修期間	4 週間 ～ 44 週間
受入可能人数	4 名
到達目標	<p>医師は、病める人の尊厳を守り、医療の提供と公衆衛生の向上に寄与する職業の重大性を深く認識し、医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）及び医師としての使命の遂行に必要な資質・能力を身に付けなくてはならない。医師としての基盤形成の段階にある研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医師としての倫理観・責任感・使命感をもって行動できる。</li> <li>2. プライマリ・ケアを実践できる基本的診療能力（知識、技能、態度）を身につける。</li> <li>3. 医療における安全管理の方策を理解し、患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行できる。</li> <li>4. 医療チームの構成員としての医師の役割を理解し、他のメンバーと協調して問題解決にあたることができる。</li> <li>5. 患者を全人的に理解し、患者・患者家族と良好な人間関係を確立し、予防を含む包括的なケアを提供できる。</li> <li>6. 医師としての社会的使命を自覚し、有限である医療資源を公平に配分し、効率的に使用することができる。</li> <li>7. 世界の医学研究の動向を理解し、最新の医学知識を修得するための英語能力を獲得し、国際保健の向上に貢献できる。</li> <li>8. 常に自らを省みて医学の研鑽と学習に励み、自己の向上に努める。</li> <li>9. 臨床活動の改善を目指し、見出した問題点の意義を検証し、研究課題を設定できる。</li> </ol> <p>あらゆる運動器に関する科学的知識と社会的倫理観を備え、進歩する医学の新しい知識と技能を修得できるような幅広い基本的な臨床能力を修得する。</p>
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 基本的身体診察法 骨・関節・筋肉および神経系の診察・カルテ記載ができる。</li> <li>2. 基本的手技 皮膚切開、皮膚縫合ができる。脱臼の整復ができる。松葉杖の処方ができる。 軽度・中等度の四肢外傷の創処置、外固定法（ギプス、副木）が実施できる。 指導医のもとで、四肢骨折の手術治療ができる。</li> <li>3. 経験すべき症状・病態 運動器損傷、関節痛、歩行障害、腰痛、四肢の麻痺などの診察診断、画像診断ができる。入院の必要な患者については専門医にコンサルトすることができる。</li> <li>4. 緊急を要する症状・病態 骨折、脱臼、靭帯損傷などの応急処置、整復方法、外固定法を学ぶ。 骨関節感染症、四肢麻痺などへの対応を学ぶ。 入院・手術が必要な患者については専門医にコンサルトすることができる。</li> <li>5. 経験が求められる疾患・病態 運動器外傷一般、変形性関節症などのcommon disease、脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、関節リウマチ、骨軟部の良性・悪性腫瘍など。</li> </ol> <p>整形外科専攻を考えている方は、何時でも相談に来て下さい（秘書：内線3212）。整形外科が患者さんの人生や生活に向き合い、患者さんに感謝される、興味深い診療科であるかお話しします。 早く専攻診療科を決めることにより、早く基本学会（日本整形外科学会）に入会できます。そして、専門医資格獲得という大きな目標をもって初期研修の2年間を過ごすことが出来るでしょう。これが充実した初期研修を行うポイントです。</p>

<p>方略 (LS)</p>	<p>外傷班を中心として5つの臨床チーム（外傷、関節、脊椎、上肢、腫瘍）を経験してもらいます。臨床チームの指導医が、個々の患者の外来診療、入院、手術、術後リハビリ、退院、そして外来フォローまで、整形外科診療の一連の流れを一緒に行います。指導医とともに関連研修病院へ出て、大学病院以外の臨床も体験できます。指導医の支援を得て、研修期間に学会へ参加し（費用の心配はありません）、症例発表を行い、それを論文にまで仕上げましょう。その論文は学位取得、専門医資格申請の際に役立ちます。</p>
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価（フィードバック）を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <p>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）」に関する評価</p> <p>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 A-2. 利他的な態度 A-3. 人間性の尊重 A-4. 自らを高める姿勢</p> <p>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価</p> <p>B-1. 医学・医療における倫理性 B-2. 医学知識と問題対応能力 B-3. 診療技能と患者ケア B-4. コミュニケーション能力 B-5. チーム医療の実践 B-6. 医療の質と安全の管理 B-7. 社会における医療の実践 B-8. 科学的探究 B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価</p> <p>C-1. 一般外来診療 C-2. 病棟診療 C-3. 初期救急対応 C-4. 地域医療</p>
<p>責任者からの一言</p>	<p>近畿大学病院での初期研修には医療・医学の「基本を大切にする」という姿勢があります。その理由は、卒後も成長を続けられる医師を育てることを目標としているからです。生涯にわたり自分自身を高める力を身につけて時代の変化に対応してゆくことは、社会にとって必要な医師であり続けるため、医師として社会で活躍し続けるために大変大切なことです。困難に直面したときこそ、基本に立ち返る力が必要なのです。初期研修の時期に強固な成長基盤を培うことは、皆さんの将来を約束すると言って過言ではありません。是非、近畿大学病院での研修に参加して下さい。</p>